

製品名: カスパーゼ 9 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21545**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	Calculated MW:46kD;Observed MW:40kD

抗原情報

遺伝子名	CASP9
別名	CASP9;MCH6;Caspase-9;CASP-9;Apoptotic protease Mch-6;Apoptotic protease-activating factor 3;APAF-3;ICE-like apoptotic protease 6;ICE-LAP6
遺伝子 ID	842.0
SwissProt ID	P55211
免疫原	ヒトカスパーゼ 9 の組み換えタンパク質

背景

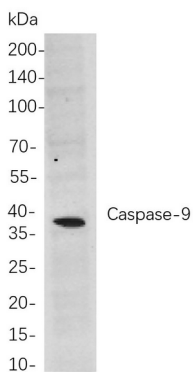
細胞局在: 細胞質。この遺伝子は、システイン-アスパラギン酸プロテアーゼ（カスパーゼ）ファミリーのメンバーをコードする。カ

スパーゼの連続的な活性化は、細胞アポトーシスの実行段階において中心的な役割を果たす。カスパーゼは不活性なプロ酵素として存在し、保存されたアスパラギン酸残基においてタンパク質分解処理を受けて大小 2つのサブユニットを生成し、これらが二量体化して活性酵素を形成する。このタンパク質は、シトクロム cとアポトーシスペプチダーゼ活性化因子 1からなるタンパク質複合体であるアポトーシスソームによって自己タンパク質分解処理および活性化を受ける。この段階は、カスパーゼ活性化カスケードにおける最も初期の段階の一つと考えられている。このタンパク質は、アポトーシスにおいて中心的な役割を果たし、腫瘍抑制因子であると考えられている。選択的スプライシングによって、複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2013年5月]

研究分野

-

画像データ



Hela 細胞ライセートのウェスタンブロット解析 (Caspase-9 Rabbit mAb 使用)。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を使用した。